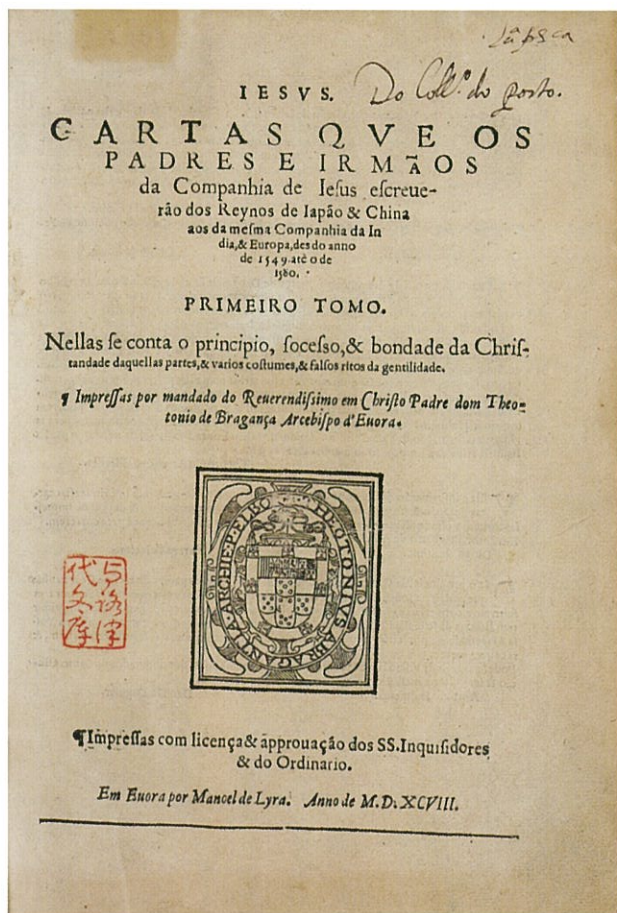


やまとの名品 天理図書館



かいしにほんしょかんしゅう
イエズス会士日本書簡集 (エヴォラ^{ほん}版)

2巻 1598年刊

〈v.1〉 縦27.5cm 横19cm

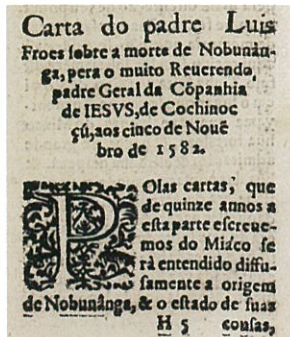
〈v.2〉 縦24.7cm 横18.5cm

キリスト教の伝来は、一五四九年、イエズス会士フランシスコ・ザビエルの渡来に始まる。

イエズス会は、カトリック修道会のひとつ。創設当初から、会の統率をはかるための通信制度が義務化されており、世界各地へ赴いた宣教師たちは、布教活動の成果や社会情勢などを、ローマのイエズス会本部やヨーロッパ各地の同僚に書き送った。書簡には、布教状況のほかにも、現地の事物や事件が記されており、なかでも教化や知識に役立つ興味深い記述は、各国語に翻訳して刊行され、当時のカトリック諸国で大変な人気があった。本書もそのひとつで、一五九

八年にポルトガルのエヴォラでテオトニオ・デ・ブラガンサ大司教の命で出版された。彼は、日本から派遣した天正遣欧使節団を迎えた人物でもある。

第一巻は「日本とシナ国のイエズス会司祭・修道士がインド・ヨーロッパの同会員に書き送った一五四九年から一五八〇年までの書簡集」のタイトルで一七四通、第二巻は「イエズス会司祭・修道士が書き送った書簡集第二巻」と始まり、通信制度が年報制に改正された後の一五八一〜八九年の三十五通、計二〇



九通が収まる。

本文は書簡原文と同じポルトガル語で記されているため、他言語に訳出されたものと比べて

内容の正確さが特長であることから、日欧交渉史や日本のキリスト教史における重要文献とされる。

挿図は、一五八二年十一月五日付でルイス・フロイスが島原半島の口之津から発信した織田信長の死去についての報告。この年の年報は既に発送されているので、この書簡は追加で送られたもの。(天理図書館 徳島照代)